

WORKS

Empower&Energize

No117

2008/7

名東福祉会は名古屋市と日進市を中心に
知的障害者を中心とする福祉活動を行っています

陶壁作業

天白ワークスでは陶芸の作業班が「陶壁」の製作に取り組んでいます。陶壁の作業はレジデンス日進が最初。昨年も1件の実績があり、今回で3作品目の陶壁となります。

今年度に入ってから、新しくできる病院に取り付ける陶壁の製作をおこなっていました。レジデンス日進を設計した一級建築士の吉田さんから病院建築設計の依頼主へ知的障害者施設の陶壁作品をご紹介いただいたものです。吉田さんはレジデンス日進の利用者の父親でもあり、早くから名東福祉会を支え



てきたメンバーのひとりです。4月初旬より制作が始まり、陶芸班全員でそれぞれの得意技を駆使しての進行でした。土台の土を踏んで固める係、模様を付ける係、目の前でできていくのを眺めていて自分も参加していると宣言する人、何かと驚く人。それぞれの持ち味を生かしての共同作業です。

天白の利用者4〜5名とボランティアアさんが製作に関わり、1ヶ月半程度かかりました。6月13日最終チェックが完了し、製作に関わった利用者職員が病院を訪れ作品を見学しました。

また、陶壁の主要スタッフのひとりである小寺良和さんは第10回フロール展大賞を受賞されました。2度目の大賞受賞は初めてのことで実力を認めて頂いた価値ある賞だと思えます。6月4日に開かれた本人、祝賀レセプションでは立派にご挨拶されました。

奈々枝日記

レジデンス日進の家族会の皆さんと御岳町のみたけの森に笹ゆりを訪ねるたびに参加させていただきました。バスの中は22名。それはそれはにぎやかでおしゃべりははてしなく続いていました。



わが子を施設に預けていても、いろいろな悩みは果てしなく、これからのこと、自分が死んだ後のこと、等等、話題はつきません。

しかし、入所施設の親さんたちは毎日会うわけではないので、久しぶりに会った嬉しさも交わって

「あのよう・・・そんでよう・・・」と近況が飛び交います。

私は何の花が好きと聞かれると

「一番笹ゆり、一番バラ」

と即座に答えるほど、笹ゆりが大好きで、幼いころの思い出や色々なエピソードが果てしなく浮かんできます。本当は以前にも来てすばらしい笹ゆりの群生を見ているので、そのとき、どんな山道かわかっています。

今年は、その時よりも歩けなくなっているの、「皆さんに迷惑を掛けるから参加しない。」といっていたのですが、嬉しさについて来てしまいました。やっぱり笹ゆりをちよつと見たところ、で歩けなくなりましたが、満足でした。その後、願興寺へより、古びたお寺におまいりしました。その境内で

「一隅を照らす」

という文字が目に入りました。

40年ほど前に長野県駒ヶ根のお寺へ光ゴケを見に行ったときのこと、そのお寺で、

「一隅を照らす」

という文字が目に入り、痛く感動しました。

私は小さな人間だから何もできないかもしれない。でも一生懸命知恵遅れという障害を持つ子達のために、小さな灯りとなって前を進もう。障害を持った子達や、その親達が道に迷って人生を見失わないように小さな灯りを灯していようと、かたく決心したものです。

それ以来、何十年、自分なりに努力してきたつもりですが、人生の終わりに近くなってまた「一隅を照らす」という文字に出会いました。これは何でしょう。

奈々枝よ、もう「一隅を照らす」は終わつたよ・・・といってくれているのでしょうか。あともう一寸ですよ。もう少し努力しなさい・・・といってくれているのでしょうか。まだまだ小さな灯りは必要ですよ。燃え尽きるまで努力しなさい・・・といってくれているのでしょうか。深く考えさせられる、ありがたい一日でした。

2008年6月11日

麦の会

麦の会という重度重症の子どもを持つ母親たちのグループは毎年1回、親だけが集まって昼食を楽しみながら近況や昔の思い出話を話し合います。みんな年をとって、会合へすら出席でき

ない人が多くなり、来年はひよつとして会合がもてなくなるかもしれません。が、とにかく今日は元気に食べしゃべりました。

第1代の会長はAさん。明るくて優雅です。

「今も『謡』を続けていて声を出すから健康でいられる」

とおっしゃっていました。お子さんは健在。しっかりとした理念を持つ入所施設を利用してほしいへん障害が重い元気に生活しているとのこと。

「息子さんが後見人になって、いざというときはやってもらえるからもう何も心配がない。動けなくなったら自分には有料老人ホームへ入所するつもり」と持ち前の前向きな発言です。

第二代目の会長は私。一代目から引き継いでいろいろなことをやったとんでもない会長でした。それが高じて今でも施設を造り続けてしまい、時代の波に揺さぶられています。決して後悔はしていませんが、もう少し職員の将来が明るいものであるように願わずにはいられません。死の間際まで「福祉の世界に日があたりますように」と願うの続け、「パタン」と逝きたいですと発言しました。

三代目の会長のFさんも「一緒だ、一緒だ」とおっしゃっていました。私は最近、若い母親グループと話し

合う機会が増えました。母親達とお話をしていると、時代は変わって50数年経った今も同じように悩み、同じように苦しみ、何か目に見えぬ大きな力で引かれあい母親達は集まってくるのだということを感じます。

何がそうさせるのかはわかりませんが、母親達は集うことによって明るく元気になります。障害がある子が社会の中で力強く生きていくには、今の、若いお母さん達が元気にならねばという事がわかっているからこそ、集まるといふのだと思います。

いざとなれば、なかに80歳を過ぎている表の会のメンバーもじつとしてはおりませんよ。みんなで明るく「共に生きる社会」をつくりましょう。

おいしいお料理のせい、なんだか元気もりもります。

2008年6月20日

小島一郎の支援センター日記

記

協議会のご報告を

昨年度、どうにかこうにか運営してきた訳であるが、今年度に入って、より安定的に、組織的に運営すべく、毎月「運営会議」なるものを開催している。これは、年数回の協議会の本会議

や各種の部会の下準備のような話し合いをしたり、区内ニーズに応じて研修会を企画したりするためのもの。

こう言うと、何だか実務的に聞こえるが、実際は支援Cや行政が関わった個別支援会議の報告や、その他の事例報告をして、区内状況を共有するという大きな意味も併せ持っている。協議会自体、個別支援会議の積み重ねが生命線と言われるくらいなので、実は後者の方が重要であると私は考えている。

毎月行うというと、なかなか事業所の参加もままならないため、身体・知的の支援C、精神の支援C、福祉課、保健所を必須メンバーとし、あとは協議会構成員の任意参加という形をとっている。幸いにしてこの形をとってから、今のところ必須メンバーだけにしたことはなく、6、8箇所の関係団体にも来ていただき、様々なご意見をいただいている次第である。

部会のごとは、まだ整理して話せる段階ではないので後日の話題とするとして、研修会の方は、すでに年間の予定を立てている。来月は高次脳機能障害に関する講演と事例検討、秋には「支援者のメンタルヘルス」と題した講演、あと年度末までに、うつと発達障害も扱う。どれも、区内の事例や事業所からの悩みに基づいたテーマ選択

であり、そこには自負を持っている。やってみた結果がどうであるかは別として……

名古屋市の場合、区単位で協議会を開催しているが、どこも依然手探り状態の様子。5月、6月と他区の行政担当者や本庁担当者も様子見で参加していただけたが、手探りなのは名東区もご他聞に洩れない。ただ、正しく手探りしているつもりはある。

いずれにしても、せつかくの場である。関係者の皆さんが協議会を利用して、具体的成果を得られるよう、力を合わせていきたい。

ときにはブルー

あるテレビ番組で 若い人たちの嗜好が変化していることをレポートしていた。かつて高度成長時代やバブル期にはあこがれだった車や海外旅行には興味を示さなくなり、なにかと内向きつつあるという。

今の世の中は混乱の時代である。ガソリンを初め、物価は上がる、訳の分からない事件は続く、政治は迷走する。「激動の時代」というとまだ期待感も感じるが、「混乱」というと文字通り先行き不安である。今まで確かであったものも、不確かとなる。そんな状況の中で、障害者福祉はどうなのだろう。立场上、あまり私が言うべきことで

はないが、福祉というのは時代時代の余剰の分配によって成り立っている。極端な話、飢餓に苦しむ国には、福祉などという発想はあり得ない。みんなが、自分が生き延びるのに精一杯である、社会的弱者などと言っている場合ではない。みんなが弱者であるからである。今の日本の混乱振りを見聞きしていると、この国にどこまで弱者を思いやる余裕があるのか、心配になる。

ノーマライゼーションと言う。障害があっても普通に暮らしたいと言うのが、普通の暮らし自体が崩れてしまうと、成り立たない概念でもある。世界的な経済恐慌が起きてファシズムが台頭するとか、中学生が日本をリードするとか、北朝鮮コマンドーに九州が簡単に占拠されるとか、そんな村上龍の小説が、リアリティをもつ訳である。

社会保障費はこれ以上上げられないと言ったって、高齢者問題や医療の立て直しの方が、優先順位は高い。障害者福祉は、ある意味、その分け前に期待するしかない。これ以上悪くなることはないのかもしれないが、障害者福祉は円滑移行期の補助金でなんとか小康状態を保つ今だからこそ、かえって不気味でもある。

自立支援法の見直しを来年に控え、やはり我々は足元を見ざるを得ない。結局のところ、我々は利用者に選ばれ

るサービスの質を磨く以外にないのであるから。少なくとも、今浮き足立っていると、文字通り足元をすくわれそうである。

支援Cのことで言えば、2年前は必死に認定調査をこなした。今年は、自立支援協議会を立ち上げた。今年は、やはり小康状態であるが、来年度は2回目に入る認定調査（それも2倍近い項目増の噂）と協議会の両方を担わなければならない。実際、できるのか？という感じであるが、まあ、やれるようにやるしかない……。梅雨のせいかネガティブな話に終始してしまつた。頭に、カビでも生えてるかも。

編集後記

▼天白ホームの小寺さんがフロール展で大賞を受賞されたことは本当に輝かしい。「陶芸」は名東福祉会が始まって以来、メイトウ・ワークス、天白ワークスで続けられてきた伝統の作業種目だ。▼名東福祉会が発足する前、信楽学園の所長だった池田太郎先生にお会いしたとき「土はええですわ。何ぼでもやり直すことができる。そつとおせば、そのように形を変え、強く握ったらそのように形を変えてくれる。素直なわかりやすい素材。知恵遅れの人たちに一番あった作業」と教えてくださった。以来、名東福祉

会ではこの作業が継続されている。▼
 愛知県では社会就労センターの平均工賃1万5000円の工賃を3万円にしようというキャンペーンが行われている。いわゆる「工賃倍増計画」だ。工賃が増えることは結構なことだが、池田先生とお話したときもついに先生は「工賃が稼げるからいい作業だ」とは言われなかった。▼「土」の持つ良さ、それを作品にすることによる喜び、そして作り上げた作品について喜んでいただける喜び。作業を行うにはまわりの人のやりとりが問題にされなければならぬ。金額に換算しなければ実績がつかめない側面はあるものの、福祉関係者が見失ってしまったているもの。あまりの大きさに愕然とする。▼名東福祉会の会長の加藤奈々枝はこの7月で満80歳の誕生日を迎える。昭和3年、東京生まれといえれば列強との軋轢、戦争、終戦、奇跡の復興、高度成長、狂乱物価、オイルショック、円高バブル、バブル崩壊と激動の昭和の60年間を駆け抜け、平成に入ってから20年の時間を生き抜いたことになる。▼確かに変らないものは何もない。価値観はうつろいでゆく。しかし、変りにくいものもあり、往々にしてその中に真実がある。知的障害者福祉はこれからも日常生活における本人の幸せに焦点を当て続けていく必要がある。

ご寄付ありがとうございます

平成20年5月26日～6月25日

レジデンス日進	はまなす	天白ワークス
伊藤和幸様	後藤良昭様	平松光男様
レジデンス日進家族会様	加島美奈様	
山田一夫様	佐知輝敏様	
	牧公三様	

名東福祉会のホームページ

ホームページアドレス <http://www.meito.or.jp>

●社会福祉法人 名東福祉会

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納58-4

TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●メイトウ・ワークス

〒465-0055 名古屋市名東区勢子坊2-1303

TEL 052(702)2863 FAX 052(701)2079

●天白ワークス

〒468-0023 名古屋市天白区御前場町327

TEL 052(804)5487 FAX 052(804)5416

●デイケア はまなす

〒465-0054 名古屋市名東区高針台1-911

TEL 052(704)7551 FAX 052(704)7552

●レジデンス日進・ハートフルアクト日進

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上納58-4

TEL 052(805)1003 FAX 052(805)1004

●こいけホーム

〒465-0047 名古屋市名東区小池町468-1

TEL 052(777)8385 FAX 052(777)8385

●天白ホーム

〒468-0021 名古屋市天白区平針字大根ヶ越141-3

TEL 052(807)1578 FAX 052(807)1578

●児童行動療育センター「たけのこの家」

〒470-0124 愛知県日進市浅田町上の山14番3

TEL 052-800-2203 FAX 052-880-2204

●メイ・グリーン

〒470-0124 日進市浅田町平池112-3